

☆授業スタート、日常が始まりました！

始業式から約2週間がたちました。年度はじめなのでクラスで写真を撮ったり、身体測定などもありました。1年生は初めての給食が始まりました。5, 6年生の児童会の役員さんによる児童集会も行われました。

そして、何より、授業が始まり、日常の学校生活が進んでいます。それぞれ、1つ上の学年の教科書をもとに、様々な学習をしています。みんな、意欲的に発表したり、考えたり、作業をしたりしています。新しい学年になり「頑張ろう」という気持ちが、ひしひしと伝わってきます。この頑張りややる気を、ずっと持ち続け、日々の活動を続けていって欲しいと思います。



1年生 初めての給食



おなか すいてるひと？



4年生の授業



桜と集合写真 3年生



児童集会の準備 2年生



5年生の授業



6年生 音楽



児童集会のようす



身体測定のようす

この調子でがんば
ろう！

夢ふうせん（読み聞かせ）



☆今年度も 非認知能力の向上に取り組めます！

豊岡市が力を入れている、「非認知能力」について、説明します。

現在の豊岡市の教育の課題は、学力の向上、不登校、特別な支援の必要な子どもたちへの対応が中心となります。また、これからの社会は変化が激しく、予測が難しい時代を迎えます。このような「人生 100 年時代」を子どもたちが生き抜いていくためには、変化に対応できる資質・能力が必要となります。

2020年度（令和2年度）から小学校の学習指導要領も新しくなり、子どもたちに育成すべき力として、今までにない「学びに向かう力」という項目が入ってきました。豊岡市はこの力を「非認知能力」と捉え、豊岡市の課題の改善を図るためのキーワードとして位置付けています。

「非認知能力」の中でも特に子どもたちの生きる力を育むためには、「やり抜く力、自制心、協働性」という数値に表しにくい能力の向上が重要であるとしています。

- ・やり抜く力 →夢や目標を持ち、あきらめずに努力し続け、粘り強く取り組むこと
- ・自制心 →自分自身の感情、欲求などをコントロールすること
- ・協働性 →他者と目標を共有し、合意形成を図りながら力を合わせて活動すること

これら、非認知能力の育成には、遊び（特に異年齢との）、ダンス、演劇など自分を表現する場面が大きく関わります。そのため、現在は6年生のみの演劇的手法を用いた授業が行われていますが、他の学年でも、「非認知能力」を育む取組を実施していきます。

子どもたちが、これからの変化の激しい世の中でも、夢の実現に向けて、たくましく頑張れる子どもに育つための取組になることを期待し、実践していきたいと思っています。ご家庭でもご理解・ご協力をよろしくお願いします。

※豊岡市の取組と一緒に掲載します。ご家庭での話も載っていますのでご覧ください。

☆小野小学校 インスタグラム 開設！



小野小学校のInstagramを開設しました。子どもたちの活動を静止画や動画でお知らせしていこうと思います。よろしければご覧下さい。Instagramのアプリを入れて、「toyooka_ono_shou」です。

☆とよおか歩子 頑張りましょう！

先日のPTA全体委員会でもお知らせしましたが、豊岡健康ポイント、「とよおか歩子」に力を入れていきたいと思っています。保護者のみなさま、職員が貯めて、小野小に寄付していただくことにより、子どもたちの教育活動に関するものを購入できるようになります。

ぜひ、みんなで頑張っていきましょう！ご協力をお願いします。

（Android playストア Iphone AppleStore でアプリをダウンロードできます）

～豊岡市教育フォーラムより～「非認知能力の向上と豊岡市の取組」

今年のテーマは「非認知能力の向上と豊岡市の取組」です。非認知能力は、数値で測れる学力を下支えするものであり、教育によって向上させることができるものと捉えています。

豊岡市では非認知能力のうち「やり抜く力」「自制心」「協働性」の3つを重点的に向上させていきます。



▲「自分たちで話し合って表現したよ」

非認知能力を高めるには、演劇やダンスなどアウトプット型の学習（他者を意識した表現）が有効であるとされています。小学校低学年の演劇ワークショップの授業では、子どもたちがなりたいものになり切って演じたり、お題について話し合い、グループで表現したりします。

発表に向けた「自分の考えを伝える」「仲間の意見を受け入れる」「納得して合意形成する」過程がとても大事です。発表に向かうこの過程で、非認知能力が発揮され、その力が高まっていきます。

フォーラムでは、参加者から様々な声が聞かれました。

授業参観した担任、校長の声

上野 真穂 教諭（資母小学校）

○ファシリテーターにどんどんほめてもらい、自信がついたようです。見られる感覚が心地よさそうでした。

西垣 秀樹 校長（三江小学校）

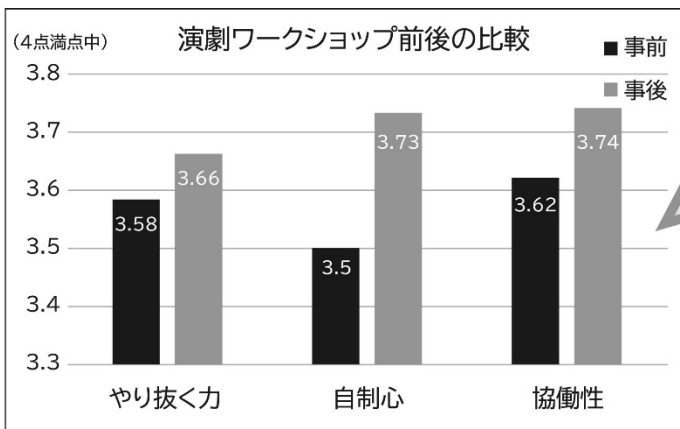
○自分で考える、表現することを楽しんでい
るなど、アウトプットすることが低学年で
は必要だと感じました。

指導したプロのファシリテーターの声

わたなべ なおこ 氏（演出家）

○アウトプットするには、一人一人「考える」
ことが欠かせません。考える力が発揮しや
すいのが演劇ワークショップです。

○幼い時の演劇ワークショップはとてもよく
覚えています。いろいろな感情の揺れ動き
や発見があり、幼少期だから記憶されやす
く定着しやすいのです。



～2020年度検証会議から～

『演劇ワークショップの後、協働性、
自制心はプラスの変化が確実に
起こったことが検証された』

（青山学院大学 荻宿研究室）

非認知能力を評価・検証した研究者の声

荻宿 俊文 教授（青山学院大学）

○非認知能力を育てるには、乳幼児期の遊びが大きく関わっています。

乳幼児期の子どもは遊びがほとんどです。遊びには「やりたいことをやる」「友達と折り合いをつける」など、子どもが育つ要素がとてもたくさん含まれています。

○異年齢での遊びが子どもの非認知能力を飛躍的に伸ばすことも知られています。

○何かを創る活動など、大人が介入しないことがポイントです。

「子どもに任せて一人前に扱う」「失敗しても子どもの責任で最後までやり切らせる」これがやりぬく力の向上につながります。

○非認知能力はスキルであり、教育で向上させる可能性があり、子どもの学力向上につながるという意味で、とても大切だと思いました。

授業の中で「学び合い」を意識し、非認知能力の視点を授業に取り入れていきたいと思います。

○教師の言葉の一つ一つが、子どもたちの非認知能力向上に影響を及ぼすことに、授業づくり、学級づくりの手掛かりがあると感じました。子どもたちを観る視点の真ん中に、非認知能力を据えて実践していきます。

フォーラムに参加した教師の声



▲「みんなにうまく伝わったかな？」

家庭でどうすればいいの？（とよおか はばたきメッセージから）

家庭でできることは、たくさんあるんじゃないかな。

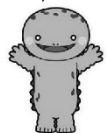


- 子どもが何にでも挑戦し、何度でもやり直せる環境をつくりましょう。 自信や勇気を育み、やり抜く力になります。
- 子どものありのままの姿を受け入れて認めましょう。 子どもを褒めるときは、能力よりも努力する過程を褒めると自己肯定感が高まります。
- 子どもと話し合っ、家庭のルールを決めましょう。 そして、ルールを守らせましょう。自制心や自立心が育ちます。
- 家庭の対話を大切にしましょう。 豊かな対話がコミュニケーション能力や表現力、自信を養います。
- 友だちと遊ぶ経験をさせましょう。 思う存分遊ぶことで、問題を解決する力や友だちとかかわる力、共感する力や自分の感情をコントロールする力などが身につきます。



ほめてもらえると、うれしくて、やる気が出るよ。

家族といっぱいお話がしたいなあ。



学校、家庭、地域みんなで、子どもの非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）を育てることを意識して、子どもに関わっていきましょう。